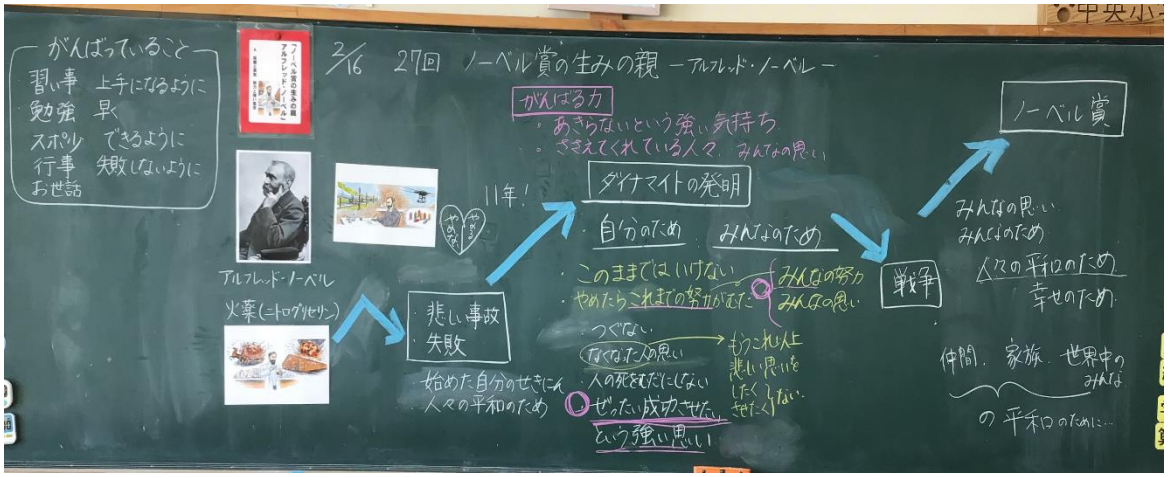
道徳だより 3

２月

「ノーベル賞の生みの親 −アルフレッド・ノーベル− 」の学習から

「やり遂げる心と力」について、ノーベル賞という世界で一番有名で権威のある賞をつくった人物＝アルフレッド・ノーベルの生き方を通して、やり遂げることの素晴らしさについて考える学習を行いました。

まず、11 年という長い年月の中で数々の困難や挫折を経験しながらも、研究を続けたアルフレッドを支えていたものについて話し合いました。子どもたちは、彼の挫折や悩みに共感しながら、「『諦めない強い気持ち』をもち続け、『周囲の人々の思い』や『自分を支え応援してくれている人々』のことを考えたとき、『頑張る力』が湧いてくる」と、考えていました。そして、目標に向かう途中で諦めそうになっても、困難に負けずに、粘り強く取り組みやり遂げることの大切さについて多面的多角的に考え、たくさんの発言をしていました。



【自分の生活を振り返る場面の児童の言葉より】

- 習い事でたくさん練習しても全然うまくできなくて諦めようかなと思ったけど、友達が頑張れと応援してくれたから頑張れた。大切な友達のためにもと考えることが頑張る力になったのだと思う。
- 前までは失敗したらやめてたけれど、これからはすぐ諦めないで限界まで頑張りたい。
- 強い気持ちで頑張ってできたときは自分も応援してくれたみんなもほんとにうれしい。
- 目標をもって始めたら、成功するまで途中でやめないで頑張りたい。
- 誰かのためにと思ってがんばったことも、自分のためになっている。
- これまでの努力を思って頑張れば、積み重ねた失敗も次に頑張れる力になる。